



# 県内最古の文書資料

近年、「リサイクル」や「も

ったいない」という言葉が盛んに使われ、社会全体で資源を大切にす機運が高まっています。実は古代においても「紙の再利用」が行われていました。

「紙」は六一〇年に朝鮮半島の高句麗から僧曇徴によつて伝えられたとされています。とても貴重で、主に役所では戸籍や土地台帳などの帳簿類、寺院では写経などに使われました。これらの文書は一定の保存期間を過ぎると、文字が書かれた裏側にも一度文書が書かれ、新たな文書として活用されます。

また、文書として再利用されるだけではなく、漆を入れた容器のフタ紙として利用される場合もありました。これらの文書を「漆紙文書」といいます。漆が付着した部分のみが偶然腐らずに残ったもので、栃木県内でも栃木市の下野国府跡などで数多く出土し

ています。

那珂川町内では小川公民館近くに所在する上宿遺跡の竪穴住居から出土しています。上宿遺跡では他にも、漆片、漆が付着した麻布、容器などが出土しており、漆工房があったと考えられています。

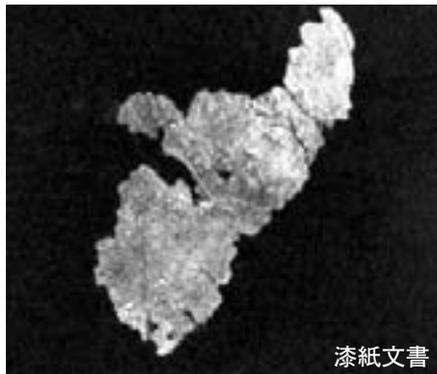
出土した漆紙文書のひとつに「高一尺 長／廣一尺四寸／五分／九横杖」(／は改行を示す)と記されているものがありました。「高」や「長」「廣」などの文字から大きさを記していると思われる、役所や寺院などで作成された備品台帳の草案と考えられています。

国の役所である下野国府跡から出土する漆紙文書は、「延暦」と記された延暦年間(西暦七八二〜八〇五年)のものが確認されています。一方、上宿遺跡の漆紙文書は八世紀中葉のものと考えられ、県内最古の文書資料といえるのです。これらの文書資料から

は、当時の地方社会の様子を文字によって知ることができ

ます。現在、上宿遺跡の漆紙文書は湯津上館で開催中の企画展「あづまのやまのみち」で展示しています。貴重な文書資料をこの機会には是非ご覧下さい。

(なす風土記の丘資料館 学芸員 金子智美)



漆紙文書



赤外線写真

## うぶごえ

(氏名) (父母の名) (住所)

和地 啓斗	哲史	健武
小高 晃暉	弘行	和見
大金未陽菜	康幸	小口
滝田 鈴夏	哲也	小口
大金 莉奈	邦博	大内
小室 敬太	誠	小川
小林 菜月	崇志	三輪

平成18年8月21日  
平成18年9月20日受付分  
※掲載は希望者のみです。  
(敬称略)

## おくやみ

(氏名) (年齢) (住所)

和久井武己	健武
大金もと子	矢又
田代 春吉	和見
武隈 年春	小口
谷田 一雄	小口
谷田 良才	小口
平塚 清	久那瀬
船森 キミ	久那瀬
佐藤 ツギ	富山
菊池 末吉	大山土郷
池澤 金	小砂
村井 十一	小川
星 スガ	小川
境谷 クラ	東戸田
星 實	薬利
佐原 浅吉	浄法寺
小室 キチ	浄法寺

## 10月1日現在の人口

(住民基本台帳)

男	10,072人 (-13)
女	10,114人 (-12)
計	20,186人 (-25)
世帯数	5,978 (-2)

( )内は前月との比較